谷地区民俗調査報告①

日吉神社と祭り

坂本勝信

挾間史談会の企画事業として、「谷地区の神社の祭り」について聞き取り調査を実施することになった。本稿はその第一弾として同尻地区に鎮座する、日吉神社（山王二十一社）と祭りについての調査記録である。

日吉神社は大津市坂本に鎮座する日吉大社を勧請した神社で、大山昨命・大国主命などを祭神とする。最澄が比叡山に延暦寺を開くと、日吉大社は其の地主神として崇敬され、神仏習合思想が起こるとともに、天台宗の守護神山王神とされ、各地に勧請され全国に約三、八〇〇社ある。「山王さん」「山王権現」と呼ばれる。猿が神使であるがそのいわれはよく分かっていない。

調査日時　平成二十四年十月十四日
調査場所　挾間町鬼崎字同尻　日吉神社社務所（兼公民館）
話し手　小森一人さん（前総代長）
　後藤陽一さん（総代長）
　工藤康則さん（自治区長）
聞き手　二宮修二・矢島嗣久・佐藤末喜・坂本勝信

一　小森さんから冒頭に申し出

＊「日吉神社境内の図」文書解読の依頼

何年か前に向ノ原の天満様を修復した宮大工から「こげなものがあるんで、しっちょるかえ」ともらったものですが、と、一枚の銅版画のコピーを提示された。

右下部分を指しながら、「この文がよう読めない、史談会の方に読んでいただけたらと、今日持ってきました。」

銅版画は、平成十四年挾間町教育委員会編「第六集挾間町の文化財（谷地区の文化財）」４Ｐに掲載されている「鬼崎日吉神社の境内の図」であった。（添付図参照）あとでのいろんな祭りの話も、この図を参考にしながら聞くことができました。

二　神社の呼び名

さんのうさま（山王様）、さんのうさん（山王さん）と通常呼んでいます。

社宝は鳥居だったんですが、倒れたために、今は新しい鳥居となっています。社宝だった鳥居には神社のいわれが書かれていたと聞いたことがあります。

（注釈「挾間町史第四編Ｐ５２０に【寛永元年在銘、光市松名の刻文あり】との記述がある」

三　現在の神社の祭礼

（一）一月一日

元旦祭、氏子総代と自治会長、神主さんの三名で神事のみ

（二）一月十六日

山の神、区長さんと神主さんの二名で神事のみ

（林業に携わっている家では、今でも「山の神」の日は入山禁止の日で、いわば正月の骨休めとして休養の日と聞いたことがありますが、同尻地区ではいかがですか。

この地区であまり林業に携わっている人がいないので分かりませんが、神社での神事のみで、一般家庭の生活への影響はないとおもいます。）

（三）三月十三日

春の大祭、昔は十二日と十三日の二日間かけての祭りでした、一日が天神様の祭りでもう一日が山王様の祭りということで二日間だったのですがが、それを一日にまとめて十三日に行うことで続けています。変更した時期は定かではありません。

（四）七月三十日、三十一日

夏祭り（オンバライ：大祓）、日吉神社最大の祭りで大変にぎやかな祭りでしたが、外への勤めが常態化した戦後、いつの間にか途絶えてしまいました。

それを十年ほど前から復活させました（復活は平成十二年？）。

にぎやかだった昔は出店も立つし、三箇所に幟を立て、提灯をつるした石柱を作り、それはそれは人出も多く盛んな祭りでした。

地区の担任も昔から決まっていました。

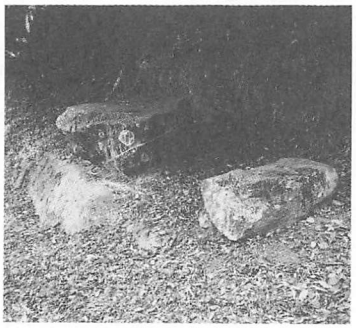
田ノ小野地区は神輿方、同尻地区は囃子方、柴尾地区は獅子方担任でした。現在では神輿方は田ノ小野地区、囃し方と獅子方は同尻地区で担任しています。

日吉神社から出発した神輿はまず河原仮御所（神社のすぐそば、神社をおりた北側）で神事とナオライ（直会：神事が終わって神酒・神饌をおろしていただく酒宴）の後仮御所を出発する。

田ノ小野に登る坂道の中ほどに神輿休石と呼ばれる平たい石が二つあり、ここで神輿と獅子頭を石の上に降ろして神事と休憩。

元宮に到着後神事とナオライ。そのあと神輿は田ノ小野地区を巡回しながら山王さまに夕方までに帰る。時間的にも子供たちも参加できるようにしました。

（元宮）



（神輿休石）

昔は山王様に帰る途中に川を渡り向之原まで繰り出していました。川を渡るのは、道路を行けば久大線の下をくぐらねばならず、神輿は橋などの下はくぐられないからと下流に回って川の中に入って渡っていました。

向之原は商家も多く、いわゆる「あがり」が多かったのでそっちに時間がかかり、結構遅くまで向之原商店街を練りあるいておりました。

田ノ小野地区担当の神輿方は八名で、神輿を担ぐ人数は六名、二名が交代交代に担ぎます。

同尻地区担当の囃子方は大太鼓小太鼓が各一、笛が十以上といったところで、囃子の調子は賀来の市の祭囃子に似ています。神輿は囃子方より前には進めず、神輿方と囃し方の進み具合についての駆け引きも面白いものです。

（五）八月　甘酒祭り（廃止）　十二月　霜月祭り（廃止）

四　祭り雑感

（一）祭り運営資金は、昔は町内有数の馬見塚酒屋が其の大部分を負担してくれていたと聞いています。

現在は区費でまかなっています。

（二）氏子数は現在一一三戸くらい。中には宗教上を理由に氏子を拒む家もありますが、それはそれで仕方ないものと思って無理強いはしておりません。

しかしながら、祭りで地域がまとまるという効果は絶大なものです。

五　精霊流しと柱松祭り

八月十六日の同尻地区精霊流しは、今では大分県下各地の精霊流しの中でもっとも大きな船を流す行事と自慢しています。当日はテレビ局も取材にきます。

始まった経緯はわかりません。戦時中中断していましたが、昭和五十一年ごろから復活しました。今でも大きな船を作るのですが材料の麦わらの入手に苦労しています。機会で麦を収穫するご時世ですので、材料収集に大変苦労しながら続けています。

精霊流しが終わったあと、虫封じの意味もあったのか「オンバシラ祭」というのをやっていました。

これは長さ十メートル以上もある柱の先端に矢竹を麦わらで組んだものを付け、石油を混ぜて固めたおがくずなどを詰めて立て、その下からひもでくくった松明に火をつけ、ブンブンと廻して先端に向かって投げ上げる。誰が一番先に柱に着火させるかを競うものです。柱は毎年同じ柱を使うので、先端が焼け焦げて年々短くなったものでした。準備できた柱は重たいため、立ち上げるのがとても大変でして、つっかい棒でやんさやんさと立たせたものでした。今ならクレーンを使えば簡単な作業でしょうが…。

平成四～五年頃からいつの間にか自然消滅してしまった行事ですが、最近地区内で、やろうじゃないかと、復活の機運があちこちで聞かれるようになりました。

六　小森一人さんの話

（一）地名について

私が住んでいる処は、通称タチューウノと呼ばれているが漢字でどう書くのか定かでなかったのですが、今回それが「龍小野」の訛りと分かりました。長老からここは宮田だったと聞いていたのが、それが神社明細牒に載っている「境外所有地・耕地一反九畝二歩」

のことだったとも判明しました。

田の小野にある「市」の名も、昔の祭典の時多くの人出があり、まるで一つの市場を成すほどの賑わいがあったその名残であることも分かりました。

（二）猿について

日吉神社と猿の関係ですが、田の小野の市という地名の近くに、猿飼いという地名があります。長老の話によると、日吉の神様が田の小野に来られるとき、神様が寵愛しておられた猿も一緒に来て、その猿を飼育されるお家来の住宅があった所だそうです。

私の家は日吉神社と道路をはさんだ田の小野に住むようになって六十余年になりますが、その間何度かお宮の境内をうろうろしている猿を見かけたことがありました。私の家にも二度来て屋根に上がったり、柿を食べたりしていつの間にかいなくなっていました。高崎山のはぐれ猿だと思っておりましたが、猿が日吉神社の神使だということを知り、吃驚しています。

＊資料1　銅版画「村社日吉神社境内図」由緒の現代語訳

「この神社は日吉神社、祭神は大山昨命（おおやまくいのみこと）である。同尻字龍小野に鎮座しており、創建年代は第百一代後小松天皇の政治、応永三年（西暦一三九六年）足利将軍義光公の臣佐藤摂津守は近江国坂本村にある日吉山王宮を深く崇敬していたが、豊後へ下向の際山王宮の御分霊を供奉して田小野字辻の林に神祠を造営したのに始まる。田小野地内に神園二ヶ所を寄付、一つを上園といい、二つを霊園と称した。当時社地は甚大広大で且つ神威は輝かしく、霊験は誠に明らかであった。ことに年三回の祭典には遠近よりの参拝人が群がりその雑踏ぶりは言いようもない。そのため一つの市場ができたほどであり、市場という字名が今なお田小野内に現存している。

当社の対向に旧竹田街道があり（山王坂という）、かっては竹田藩主をはじめその他の武士が騎馬または乗り物（駕籠）で通行すれば、必ず神罰がくだった。竹田藩主は神の威力を大いに恐れ、明暦年間（一六五五～一六五七）当地の領主である肥後藩主細川越中守にお願いして、神威を緩和してくれるように頼んだ。細川藩主も前から尊崇すること浅くなかったので、現今の地にご遷座をつかまつった。残念なことに古い記録は宝暦年間（一七五一～一七六三）の火災に蒙りすべて灰となった。

当社は神徳著しい産土神社であるので、信徒は他に倍して敬神の誠意を尽くし御神の擁恵を賜るようにすべきである。尊すべき敬すべきである。

年中祭典　陰暦二月十二日　仝六月末の日　仝十一月初申日

明治三十一年九月　　大阪　　楽聖園成盧洲謹誌

（佐藤末喜氏訳）

＊資料2　大山昨命（おおやまくいのみこと）

「くい」は杭のことで、大山に杭を打つ、すなわち大きな山の所有者の神を意味する。比叡山に延暦寺ができてからは、天台宗と比叡山の守護神とされた。比叡山の王という意味で山王（さんのう）

とも呼ばれる。比叡山麓の日吉神社（大津市）が大山昨命を祀る全国の日吉神社・日枝神社の総本山である。

＊資料3　神社明細牒（大分県公文書館蔵）

大分縣管下豊後国大分郡鬼崎村字北受

村社　日　吉　社

一　祭神　大山昨命　市杵蔦姫命　大国主命
　　軻遇槌命　景清霊　大年命　菅原神

一　由緒　不詳　明治六葵酉年村社ニ列セラル

一　神殿　竪二間　横二間三尺

一　渡殿　竪二間　横二間三尺

一　拝殿　竪二間　横四間三尺

一　境内　三百参拾八坪　官有地第一種

一　境内神社六社

琴平社　祭神　大物主命
由緒　不詳　石祠　竪壱尺二寸横壱尺七寸

天満社　祭神　菅原神
由緒　不詳　社殿　竪壱尺六寸　横三尺

春日社　祭神　天児屋根命
由緒　不詳　石祠　竪壱尺三寸横壱尺三寸

秋葉社　祭神　軻遇突智命
由緒　不詳　石祠　竪壱尺　横壱尺

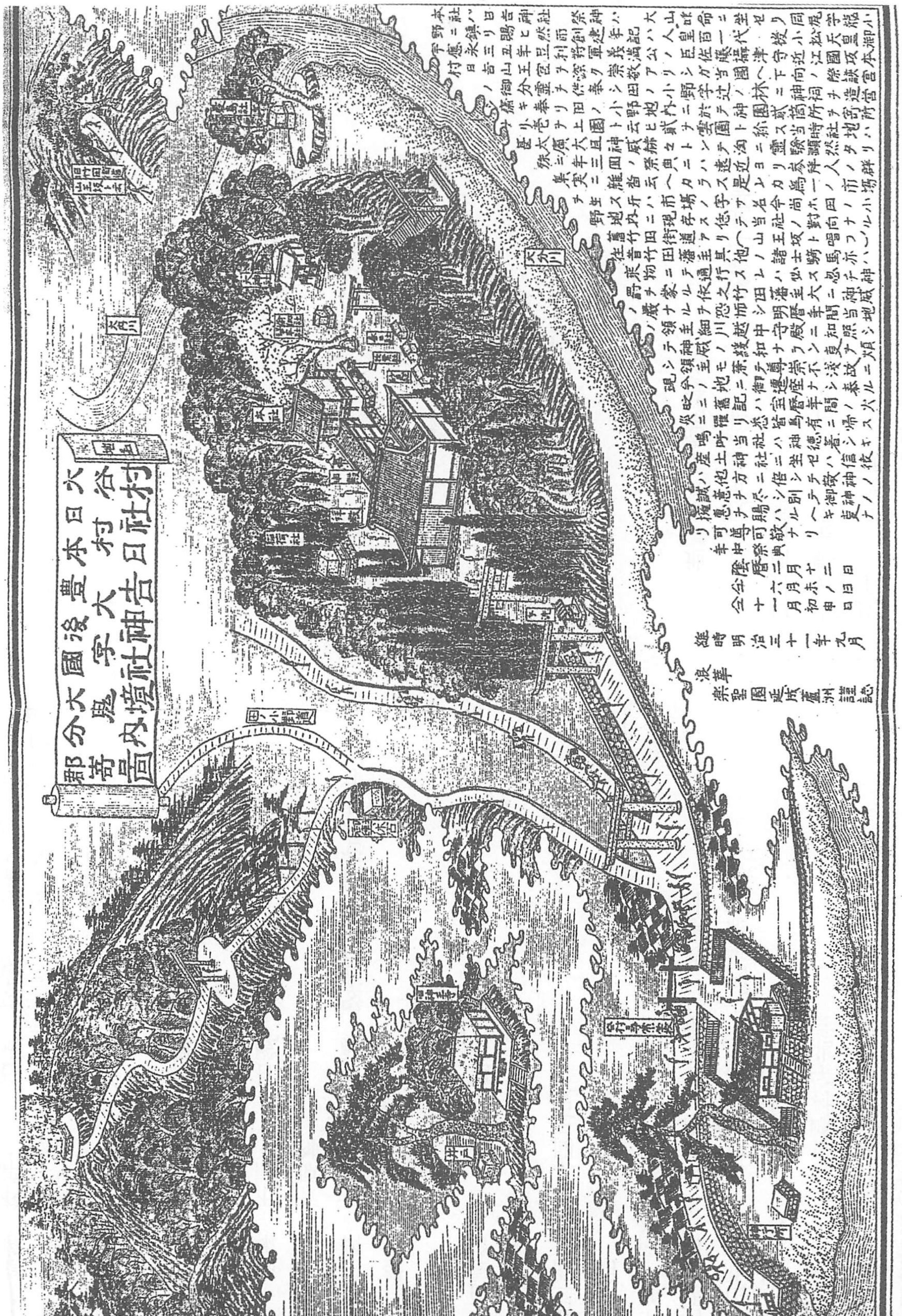
祖霊社　祭神　後白河法王
由緒　不詳　石祠　竪壱尺三寸横壱尺三寸

稲荷社　祭神　雅魂命
湯所　不詳　石祠　竪壱尺二寸横壱尺二寸

一　氏子　百弐戸

一　大分縣廳迄　三百八町

一　境外所有地
耕地壱反九畝弐歩　大字鬼崎字北受
地價金八拾壱円参拾銭


大日本豊後國大分郡
谷村大字鬼嵜
村社日吉神社境内圖